

総務文教厚生常任委員会行政調査報告書

令和6年12月12日

白浜町議会議長 溝口 耕太郎 様

総務文教常任委員会
委員長 松田 剛治


令和6年8月15日付け委員派遣承認要求書に基づき承認された行政調査について、
下記のとおり実施したので報告いたします。

記

- | | |
|------------|--|
| 1 調査期間 | 令和6年10月16日（水）から
令和6年10月18日（金）まで |
| 2 調査場所 | (1) 静岡県磐田市
(2) 静岡県藤枝市
(3) 静岡県焼津市 |
| 3 調査事項 | (1) 「磐田スポーツ部活について」
(2) 「藤枝市の防災体制について」
(3) 「ターントクルこども館について」 |
| 4 委員氏名 | 委員長 松田 剛治
副委員長 黒田 武士
委員 溝口 耕太郎
" 辻 成紀
" 西尾 智朗
" 横畑 真治 |
| 5 調査内容及び概要 | 別紙の通り |

(別紙)

調査内容及び概要

調査日	令和6年10月16日(水)
調査場所	静岡県磐田市
調査事項	◆ 磐田スポーツ部活について (1) 中学校の現状について (2) 事業内容について (3) 指導員について (4) 合同部活のメリット及びデメリットについて 他
概要及び調査内容	◆ 磐田市の基本情報 (1) 人口 165,841人(令和6年9月末現在) (2) 面積 163.45キロ平方メートル ◆ 磐田市の概要 磐田市は日本のほぼ中央、静岡県西部の天竜川左岸に広がる地域で、北部に森林、何分には海岸や天竜川などの河川や桶ヶ谷沼などの豊かな自然に恵まれている。 また、近年では地場産業である繊維産業に加え、金属、自動車、楽器などの工業都市として、また、農業産出額も県内屈指であり、温室メロンや茶、白ネギ、海老芋、中国野菜、シラスなどが有名である。 交通は、東海道の間地点に位置し、交通の要所として発展した地域であるため、東西方向の交通体系に恵まれている。鉄道は、東海道本線が市の中央部を横断し、天竜浜名湖鉄道が市の北部を横断しており、住民の交通手段として日々利用されている。道路は、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号、国道150号、150号バイパスの主要道がある。 【行政調査の様子】  (磐田市議会議場)  (磐田市委員会室)

◆ 磐田スポーツ部活について

中学生のスポーツ活動の問題を解消していくため、学校部活動の枠を超えた公設公営のスポーツクラブ（磐田スポーツ部活）を平成28年度に設置する。平成28年度から4年間、静岡県からの委託事業として実施する。

【設立当初の目的】

- ・中学生の運動・スポーツ活動の機会の充実
- ・中学校教員の負担軽減への対応
- ・企業や大学等地域とのスポーツ連携の促進

【内 容】

通年活動する「部活（陸上競技部・ラグビー部）、競技レベルに応じた専門的指導を受ける「スポーツ塾」、普段の学校生活や学校部活ではなかなか体験できないスポーツの機会を提供する「体験教室」を実施する。（令和3年度から部活のみ継続実施）

【所 管】

- ・平成28年度はスポーツ推進室が担当
- ・平成29年度からスポーツ戦略室が担当
- ・令和3年度から教育委員会学校教育課に移管
- ・令和5年度から新設の放課後活動課（部活動地域移行推進 G）が担当

○陸上競技部

項 目	内 容
入部対象校	3校（豊田中・豊田南中・豊岡中） ※陸上部がない中学校のみ
部員数	57名（豊田中31名・豊田南中20名・豊岡中6名）
活動日（曜日）	週4日（火・木・金・土）
活動時間	17：30～19：00
活動場所	磐田市陸上競技場
施設使用料	減免規程により免除
指導者	NPO 法人磐田スポーツ協会所属コーチ4名
移動/送迎	生徒本人による移動（自転車）又は保護者による送迎
大会参加	在学する中学校登録で中体連や協会主催大会に出場
備考	・参加費は無料。ただし、用具や大会参加料等は自己負担。 ・公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ安全保険に加入（市負担）

○ラグビー部

項 目	内 容
入部対象校	磐田市立中学校 全10校
部員数	52名（市内29名・市外23名）
活動日（曜日）	週2日（火・金） ※スクールは週1日（土）大会参加あり ※アカデミーは週1日（水・選択制） 大会参加なし
活動時間	17：00～19：00
活動場所	磐田スポーツ交流の里ゆめりあフットサル場
施設使用料	減免規程により免除
指導者	静岡ブルーレуз（株） 久保晃一・海野真由氏
移動/送迎	生徒本人による移動（自転車）又保護者等による送迎
大会参加	ラグビースクールに加入している生徒はスクールの大会に参加
備考	・参加費は無料。ただし、個人で使う用具等は自己負担 ・公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ安全保険に加入（市負担）

○陸上競技部・ラグビー部員数の推移

部/ 年度	平 成			令 和				
	28	29	30	元	2	3	4	5
陸上	18	30	45	55	52	45	48	50
ラグビー	13	20	24	22	23	27	31	43
合計	31	50	69	77	75	72	79	93

○今後の部活動（部活動から地域クラブ活動へ）

部活動は、これまで学校教育の中で整備され、子どもたちの人間的な成長に大きく寄与してきたが、多様化や少子化の進展など子どもたちの部活動をめぐる状況は困難さが増してきた。

そのような中で、新たな地域クラブ活動「SPO☆CUL IWATA」を立ち上げる。「やりたいことを自分で選び参加する」活動になるよう、現在の部活動と同様に、地域クラブ活動も「希望加入制」としている。



今後は、部活動に関する様々な状況を考慮しながら、平日の学校部活動も段階的に SPO☆CUL に移行していく予定である。

<p>委員長所感 (意見・課題・ 本町への反映など)</p>	<p>中学校の運動、スポーツ活動の機会の充実、学校教員の部活動の負担軽減への対応、地域とのスポーツ連携の促進などの各課題を解消していくために、学校部活動の枠を超えた公設公営の磐田スポーツ部活を平成28年度に設置されており、通年活動する「陸上部、ラグビー部」、競技レベルに応じた専門的指導を受ける「スポーツ塾」、普段の学校部活ではなかなか体験できないスポーツの機会を提供する「体験教室」を実施されている。</p> <p>当町でも貴市が取り組まれているような部活動のあり方を参考にしながら、スポーツに対する様々な機会や選択肢を提供し、子供たちのスポーツ部活に向き合う姿勢として、やる気や楽しさに繋げることができればと考える。</p>
<p>委員所感 (意見・課題・ 本町への反映など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・磐田市にサッカーJリーグのチームがあるということで、市内のスポーツ施設等の環境が整っており、社会体育化が進んでいるように感じた。 ・学校のクラブへの参加も任意になっており、学校のクラブにないスポーツも選択できるのは、生徒にとって素晴らしいことだと思う。 ・当町で同じような取組をと考えた場合、スポーツ設備の整備や指導者の確保が課題になると推測される。 ・現在、陸上競技部は、市内にある中学校10校のうち陸上競技部がない3校が対象となっているが、今後は市内の全ての中学校を対象に地域クラブ活動へ移行していく予定であり、そのことで中学校教員の負担減になると考えられる。 ・ラグビー部については、市内にある全中学校10校が対象となっており、週2日クラブ活動をしている。ただ、市内の高校にはラグビー部がないため、県外の強豪校に行き、活躍をしている選手も多いと聞いたので、このスポーツ部活の活動が充実しているのだと思った。 ・ヤマハ発動機が所有する球技専用スタジアムがあり、ヤマハ発動機サッカー部がジュビロ磐田の前身として、磐田市内を中心に活動を行っていた。そのため、企業や大学などとスポーツ連携を促進し、地域振興を図ってきたと見られる。 ・スポーツ庁の後押しを受け、スポカル(スポーツ&カルチャー)の組織化に取り組んでいる。平成28年度から令和元年度まで約3,000万円の県からの委託事業を実施し、指導員の登録制度並びに人材バンク制度の充実、また各協会や連盟の協力をいただきながらスポーツ振興を図ってきた。決して選手のアスリート化を目指したのではなく、スポーツ部活を通じて地域の連携を図っている。 ・スポーツが盛んな町として知られており、サッカーJリーグのジュビロ磐田やラグビーリーグワンの静岡ブルーレヴズなどスポーツチームと連携した交流事業を行い、活気ある街づくりを進めていると感じた。 ・国の制度を利用し、学校部活動指導員などの外部からの協力、ガイドラインなども設定し、磐田市全体でスポーツ部活の再編に力を入れている。人口減少が進む中、学校の部活は大変重要であり、白浜町として

	<p>どのように取り組んでいくべきかと考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・県からの委託事業を受け実施する。学校教育が多様化する中で、部活動をめぐる状況も困難さを増しており、専門的な指導者の確保など今後の課題への取組が必要だと感じた。
--	--

(別紙)

調査内容及び概要

調査日	令和6年10月17日(木)
調査場所	静岡県藤枝市
調査事項	<p>◆ 藤枝市の防災体制について</p> <p>(1) 藤枝市 GIS (地理情報システム) について</p> <p>(2) 市民への情報提供等について</p> <p>(3) 防災意識の向上について</p> <p>(4) 自主防災組織について</p> <p>(5) 藤枝女性防災ネットワークについて</p>
概要及び調査内容	<p>◆ 藤枝市の基本情報</p> <p>(1) 人口 140,132人(令和6年8月末現在)</p> <p>(2) 面積 194.06km²</p> <p>◆ 藤枝市の概要</p> <p>藤枝市は、静岡市から西へ約20キロメートル、静岡県のほぼ中央に位置しており、市域は、北は南アルプスを望む赤石山系の森林地帯から、南は江戸時代「越すに越されぬ」と言われた大井川の一部まで、東西16キロメートル、南北22キロメートルに広がり、面積は約194平方キロメートルあり、豊かな自然に恵まれた歴史と文化の香りあふれるまちである。</p> <p>昭和29年3月に市制を施行し、平成21年1月1日に、隣接する岡部町と合併し、静岡県の中核都市として発展している。</p> <p>現在は、JR東海道本線、新幹線、国道1号バイパス、東名高速道路に加え、平成24年に開通した新東名高速道路といった日本の大動脈がまちを東西に走り、さらに隣接する地域にある富士山静岡空港へのアクセスも充実している。</p> <p>【行政調査の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>(総務部危機管理センターの説明) (防災用トイレカーの見学)</p>

	<p>◆ 藤枝市の防災体制について</p> <p>○危機管理センター</p> <p>【大規模対策課/職員数6名】 危機管理に関する総合的な企画及び調整、関係機関との連携強化、防災施設や資機材の整備といった「公助」を担当。</p> <p>【地域防災課/職員数8名】 災害発生時に「自助」・「共助」の地域の中核となる、自主防災組織や消防団の育成・強化を担当。</p> <p>○自助・共助の強化の取組</p> <p>(1) わが家の地震対策3本柱+1</p> <p>①わが家の耐震化 ②家具の転倒防止 ③非常用品の準備 ④感電ブレーカーの設置</p> <p>※感電ブレーカーの設置補助については平成28年度に開始し、令和5年度末までで2,272件の設置補助を実施している。</p> <p>(2) 災害時協力井戸制度（令和3年度制度開始） 個人や企業等が所有・管理している井戸を対象としている。 補助金額は、対象経費の1/2（上限50千円/年度）とし、井戸の修繕、維持管理及び水質検査に要する経費を補助対象としている。 また、令和6年9月末現在の登録件数は44件である。</p> <p>(3) 自主防災会の活性化 自主防災会の活動を支援するため、地域防災指導員養成講習会を平成14年度から実施し、本年度を含めて2,232人を養成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目 初級（全6回・防災体制、災害医療、イメージTEN等） ・2年目 中級（全4回・上下水道の防災対策、事業者の対策等） ・3年目 上級（全3回・災害廃棄物、多様性、ペット避難等） <p>(4) 自主防災会への補助制度</p> <p>①自主防災組織活性化事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金額 25,000円（均等割）+世帯数200円（世帯割） ・対象経費 防災訓練・研修会・防災資機材維持管理経費 ・予算額 15,210千円（令和6年度） <p>②自主防災会資機材整備事業補助金（限度額500千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金額 対象経費×1/2（R6～8年度は2/3に拡大） ・対象資機材 発電機、投光器、簡易トイレ等 ・予算額 26,100千円（令和6年度）
--	---

	<p>③自主防災会防災倉庫整備事業補助金（限度額 250 千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金額 対象経費×1/2（R6～8 年度は 2/3 に拡大） ・予算額 3,900 千円（令和 6 年度） <p>(5) 藤枝女性防災ネットワーク（令和 2 年度発足）</p> <p>地域防災活動への女性参画の拡大や女性の視点を取り入れた避難所運営の検討・推進を目的とし、リーフレットの作成、避難所レイアウトの検討、防災講座などの活動を行っている。令和 6 年度の参加者は 14 名で、主に地域防災指導員・災害ボランティアの方である。</p> <p>(6) 自主防災会での避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期 総合防災訓練（8 月下旬～9 月上旬） 地域防災訓練（12 月上旬） ・訓練内容 安否確認訓練、消火訓練、応急救護訓練等 <p>※地域防災訓練では避難所開設・運営訓練を実施。</p> <p>今後の課題としては、熱中症対策、訓練内容のマンネリ化、訓練参加者の高齢化・固定化等がある。</p> <p>○公助の強化の取組</p> <p>(1) 藤枝市地理情報システム（GIS システム）について</p> <p>災害時に、被害状況や避難所情報を地図上に入力することにより、庁内で災害情報を共有するシステムである。スマートフォン等からも閲覧可能であり、地震や洪水のハザードマップなども閲覧できる。</p> <p>今後の課題は、現在、各課で入力した災害情報について、庁内のみで閲覧可能としているが、今後、同情報を市民も閲覧できるよう改良をすることである。</p> <p>(2) 防災情報の発信について</p> <p>正確な情報を迅速に提供することにより、市民に対し適正な行動を促し防災・減災につなげていくことを目的としている。発信方法は、ホームページ、同報無線、SNS である。</p> <p>※他市町の災害情報をホームページに掲載する意図については、防災意識の向上も目的としているが、市として被災地に対しどのような支援をしているのかの情報提供も兼ねる。</p> <p>(3) 防災アプリ「藤枝市防災」について</p> <p>令和 3 年度に市独自の防災アプリとして導入し、登録者数は 8,022 人（R6.3 月末現在）である。また、同報無線の放送内容、気象情報、避難情報など、藤枝市に特化した各種防災情報をリアルタイムで取得できる。</p> <p>(4) トイレカー、多目的支援車（AI シャワー）について</p> <p>トイレカー 3 台、多目的支援車（8 t 車）1 台を所有している。1 月の能登半島地震においても、トイレカーや多目的支援車による支援を実施した。</p>
--	--

<p>委員長所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>藤枝市の先進的な防災行政の取り組みの中で、防災用トイレカーの導入などもされており、緊急防災・減災事業債などの国の予算をうまく活用しながら、当町にとって必要な対策を進めていかなければならない。</p> <p>何よりも自助・共助の強化の取り組みとして、自主防災組織への活動支援の充実として補助金を手厚し、自主防災組織の活性化に繋げていくことが重要である。</p> <p>地域防災活動への女性参画の拡大や女性の視点を取り入れた避難所運営の検討、推進のためにも、貴市が取り組んでいる女性防災ネットワークの発足も必要ではと考える。また、通電火災などの二次的被害防止として、感震ブレーカーの設置や、家具の転倒より身を守るために、家具等の転倒金具の設置など、基本的な防災での事前対策の重要性を学んだ。</p> <p>また、今後30年以内に発生する南海トラフ地震の発生確率は70%～80%と言われており、南海トラフ巨大地震が発生した場合、町民の約3割が死亡もしくは負傷、建物は全壊・半壊含めると約55%が倒壊すると予想されている。その対策として、津波避難タワーの整備や、備蓄倉庫の整備、また自主防災組織への支援など、ハード面、ソフト面において様々な取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>藤枝市が先進的に取り組まれている災害に強い町を目指した防災体制について学び、我が町の今後の防災行政の取り組みの参考としたい。</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時協力井戸制度を令和3年から行っている。白浜町内にある井戸についても水の確保を考え、利活用できるように維持管理を考えていってもよいのではないかと思った。 ・藤枝市には女性防災ネットワークがあり、女性の視点から避難所運営の検討や推進を行っており、すばらしいと感じた。白浜町でも、女性が参画しやすい取組があればと考える。 ・藤枝市では、防災用トイレカーやシャワー設備がある多目的支援車が整備されていた。白浜町はイベントも多く、災害時以外にも活用できることから、導入について熟考していきたい。 ・地域防災課や大規模災害対策課を設置し、災害対策室と防災学習室の体制強化を充実し、組織の分散化を図っている。 ・大規模災害対策課では、「公助」として、危機管理に関する総合的な企画や関係機関との調整強化、防災設備や機器材の整備を担当している。また地域防災課は、「自助」、「共助」として、防災組織や消防団の育成・強化を担当しており、家の耐震化、家具の転倒防止、非常用品の準備、感電ブレーカーの設置補助制度を充実させ、その促進に力を入れていると感じた。 ・町内単位で組織する 202 自主防災会の支援や組織への補助制度の拡充が図られていた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・公助強化の取組として、被害状況や避難情報を共有するシステム（GIS）の活用をしているが、庁内のみでの閲覧可能となるため、同情報を市民へも閲覧できるよう検討しているとのことだった。 ・藤枝市にある危機管理センターでは、大規模災害対策課と地域防災課で災害時の体制が分けられているため、災害等への対応がスムーズに取られていると感じた。 ・自助・共助の取組では、自主防災会を支援するため、地域防災指導員養成講習会を平成14年度から実施し、本年度も含め2,232人を養成し、強化が図られていた。 ・予算化されている補助制度として、自主防災会への防災訓練・研修会・防災資機材維持管理経費などや、災害時協力井戸制度があり、自助、共助の取組の強化に取り組まれていた。 ・公助の取組として、「藤枝市防災アプリ」をはじめ、トイレカーや多目的支援車などを所有しており、能登半島地震においても支援を実施したそうである。人口規模、予算規模も白浜町と違いはあるが、人命を守ることに何も変わりはなく、今後も防災対策に取り組んでいきたいと考える。 ・「藤枝市防災」アプリでの防災情報は、同報無線の放送内容や気象情報、避難情報など多岐にわたり、住民への情報が早期に発信できることが必要だと感じた。 ・地域防災活動への女性参画の拡大、女性の視点を取り入れた避難所運営の検討や推進を行っており、白浜町にとっても今後の課題といえる。 ・トイレカー、多目的支援車（AI シャワー）は、藤枝市だけではなく、他の地域への支援にも活用していると聞き、その必要性を考察していきたい。
--	--

(別紙)

調査内容及び概要

調査日	令和6年10月17日(木)
調査場所	静岡県焼津市
調査事項	<ul style="list-style-type: none">◆ ターンクルこども館について<ul style="list-style-type: none">(1) 利用状況について(2) こども館の設計、建築事業費等について(3) スタッフ(サポーター)について
概要及び調査内容	<ul style="list-style-type: none">◆ 焼津市の基本情報<ul style="list-style-type: none">(1) 人口(2) 面積◆ 焼津市の概要<p>焼津市は静岡県中央部に位置し、北は遠く世界遺産の富士山、東に駿河湾を臨み、西南一面に広がる大井川流域の志太平野で、高草山・花沢山など丘陵部を境に県都静岡市と、西には藤枝市、大井川を挟んで吉田町と島田市とに接している。</p><p>東京へ約193km、名古屋へ約173kmの地点にあり、その玄関口としてJR東海道本線に「焼津」と「西焼津」の2駅、東名高速道路に「焼津IC」と「大井川焼津藤枝スマートIC」がある。</p><p>年間の平均気温は17℃前後と温暖で、冬季の降雪もまれである。年間降水量は2,000mm前後で、夏は南西風が、冬の平野部では西風が強く、春秋は「ならい」と呼ばれる北東の風が吹くことがある。</p> <p>【行政調査の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="text-align: center;"><p>(施設内見学)</p></div><div style="text-align: center;"><p>(正面玄関前)</p></div></div>

◆ ターントクルこども館について

焼津市の子育て支援施策の5本の柱の一つである子育て環境整備の中に「ターントクルこども館」の建設があった。

平成28年度に市長戦会議が開催され、「屋内の子どもの遊び場」は、平成29年度に基本構想を策定し、早期の施設整備を行うこととした。

○ターンクルこども館整備基本構想①

【基本理念】

- ・未来を担うすべての子どもたちが、限らない夢と創造力を持ち、健やかに成長していくために、「集い・遊び」の機能に加え、読書や体験などの成長段階に応じた「学び」の機能を有する複合的な機能を配置する。
- ・子どもを中心とした保護者や幅広い世代の人々、子育て支援団体等が交流できる子育て支援の拠点を目指すこととしている。

○ターントクルこども館整備基本構想②

【整備場所】

- ・市有地かつ更地であり、早期着手が可能な点、公共交通機関の利便性やにぎわい創出などの観点から旧福祉庁舎跡地とする。

【施設の名称】

- ・多くの来場者でにぎわう施設となることを願い、「(来場者が)たくさんくる」を焼津市の方言で表した「ターントクルこども館」となる。

【概算事業費】

- ・当時、約15億円を見込み、財源はふるさと寄付金基金及び合併推進債を活用する。

【管理運営形態】

- ・公設民営が適切である。

○ターントクルこども館の運営計画

【運営形態】

- ・開館時から当面は、市の直営とする計画とする。
- ・「市民協働型の運営体制」を実現するため、市民人材の育成を図るとともに、この人材により構成する法人の設立を支援していく。
- ・開館からおおむね3年後には、当該法人が指定管理者となり、将来にわたって管理・運営を担っていく姿を目指していく。

それらの理由から、令和6年4月1日から、指定管理者として「ことこと」がこども館を管理・運営をしている。

【施設概要】

- ・施設の名称 ターントクルこども館
- ・設置場所 静岡県焼津市5丁目地内
- ・敷地面積 1,614.90 m²
- ・建物の構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
- ・建物の階数 地上3階建
- ・建物の延床面積 2,753.96 m²
- ・総事業費 約17億円
- ・建物完成日 令和3年4月30日（竣工日6月6日）

○ターントクルこども館の運営①

【開館時間】

- ・やいづえほんと 午前9時から午後7時
- ・焼津おもちゃ美術館 午前10時から午後4時

【休館日】

- ・水曜日（休日の場合は、その翌日以後の最初の平日）
- ・12月29日～翌年1月3日

【入館料】

- ・ターントクルこども館入館料 無料
- ・焼津おもちゃ美術館入館料

区分	市内	市外
未就学児（1歳未満）	無料	無料
未就学児（1歳以上）	無料	500円
小学生	100円	500円
中学生・高校生・シニア	200円	700円
大人	500円	1,000円

※団体割引あり。平日半年パスポートあり。

学校等が教育活動等に利用する場合や障害者が利用する場合は、減免制度がある。

○ターントクルこども館の運営状況（令和6年9月30日現在）

【来館者数】

年度	こども館来館者数	うち、おもちゃ美術館
令和3年度	46,726人	41,514人
令和4年度	80,930人	73,214人
令和5年度	95,598人	86,766人
令和6年度	52,288人	48,288人

※令和6年度の来館者数については、令和6年9月30日までの来館者数である。

<p>委員長所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<p>未来を担うすべての子どもたちが、限らない夢と創造力を持ち、健やかに成長していくために、「集い・遊び」の機能を有する複合的な機能を配置し、子どもを中心とした保護者や幅広い世代の人々、子育て支援団体等が交流できる子育て支援の拠点を目指すことを基本理念とされている。</p> <p>施設内を見学させていただき、世代を超えた地域のオアシス的な場となっており、施設名にある通り多くの方に愛され、利用される「ターントクル」施設、まさに「こどもまんなか社会」にふさわしい施設であると感じた。</p> <p>当町でも今後児童館の建て替えも検討されており、複合施設としての機能の充実も図り、指定管理者制度の導入なども視野に入れながら、町民に喜ばれる施設の在り方を検討しなければと考える。</p> <p>また、焼津市の先進的な取組を深く学び、我が町の今後の「こども子育て行政」の取組の参考としたい。</p>
<p>委員所感 (意見・課題・本町への反映など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「やっぱりママ・パパになるなら焼津市」をスローガンに、子育て支援に力を入れており、今回行政調査を行ったターントクルこども館の図書館部分は、親子で楽しめる施設になっていると感じた。 ・2階と3階にある「焼津おもちゃ美術館」は、自然の恵みを感じて五感を使って遊ぶことができる木製の玩具や遊具がある。また、焼津市らしい玩具もあり子どもから大人まで楽しめる工夫がされている。 ・白浜町も児童館の建設等が今後あるので、子どもたち、また親子等で楽しめ、また天候に左右されずに集える場所づくりの必要性を感じた。 ・ターントクルこども館の利用者については、市外から来られる方が7割を占め、市内も含め多くの子育て世代から評価をされていると考えられる。 ・ターントクルこども館の開設により、子育て世代の交流も増え、親子で安心して利用できる施設となっている。 ・おもちゃ学芸員・えほんとサポーター(ボランティア)の登録が令和6年9月末現在で253名おり、地域をつなぐ多世代交流連携拠点としての役割も担っている。 ・建設費17億円(財源はふるさと寄附金と合併推進債)の巨額の費用をかけ、年間7,000万円の指定管理費用を費やし、子育て支援に力点を置いていると感じた。 ・利用者数は年間約30万人(市外7割、市内3割)であり、絵本やワークショップ、おもちゃ美術館など多彩な環境を整えた事業を展開している。 ・スタッフは市からの出向職員が2名、パートやフルタイム、ボラ

	<p>ンティアなど20数名で運営している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターントクルこども館が開設されている場所は、JR 焼津駅から市役所方面の焼津駅前通り商店街近くであり、利便性もよく、また施設でも幼児や学生向けに様々なイベントを行い、にぎわいを創出している。 ・ターントクルこども館は、「やいづえほん」と「焼津おもちゃ美術館」の3階建てで、市民だけでなく市外からも多くの方に来館される多世代交流連携拠点施設となっており、誰もが笑顔で過ごせる時間を演出することを目指して取り組んでいた。 ・焼津おもちゃ美術館には、おもちゃ学芸員がおり、おもちゃの使い方や館内の説明をするだけでなく、焼津の豊かな自然や文化も伝え、来館者にワクワクとドキドキを伝えるおもちゃの伝道師のような存在だと思った。また、子どもと接することが好きな方たちが活躍されていた。 ・やいづえほん（図書館）は、「えほんと出会い」、「えほんと創造」、「えほんと安心」をコンセプトに、絵本を通じた多様な体験を生み出し、さまざまな絵本と人をつなぎ、「こどもの可能性を開く」、「親子の日常に寄り添う」、「大人が子どもの心を取り戻す」を目標に図書館の環境づくりに取り組まれていた。白浜町も図書館建設を考えている最中であり、やいづえほんとの取組を参考にしたいと思う。 ・ターントクルこども館は、絵本もあり、また木のぬくもりを感じさせる玩具もあり、さまざまな体験の場が整備されており、一日中、家族や友達などと楽しめる施設になっている。また、市外からの来館も多く、幅広い世代の拠点施設でもあると推察する。
--	---